

東京都あきる野市 校務 DX 計画

1 パーパレス化に向けた取組

令和 7 年度から以下の取組を実施する。

(1) 学校から保護者への配付物のデジタル化

現在、保護者から学校への遅刻・欠席連絡については、Forms 等のクラウドツールを使用することでデジタル化を実現している。

一方、学校から保護者への連絡手段については、メール配信システムを導入し、簡易・緊急なお知らせをデジタル化しているものの、「ファイルの添付ができない」ため、学校だより等の配付物については、依然として紙を使用しており、印刷・配付に係るコスト(用紙代、インク代、印刷に係る教職員の業務負担等)や、子どもが配付物を紛失したり、保護者に渡し忘れたりするリスクといった課題がある。

そこで、学校から保護者への連絡手段を現在のメール配信システムから、PDF ファイル等が添付可能なアプリ(スクリレ)に移行することで、それらの課題を解消する。

(2) FAX・押印の運用見直し

学校間及び学校と教育委員会間の業務連絡・申請等における FAX・押印の運用の見直しを実施する。

業務連絡等における FAX の使用は原則廃止とし、メール・フォーム等の手段に移行する。また、条例・規則等で明文化されていない文書における unnecessary 押印を削減する。

これらの取組により、不要な紙の使用を削減するため、校務のクラウド化・デジタル化を進める環境を整える。

2 校務のクラウド化・デジタル化

(1) 校務支援システムについて

当市では、令和 3 年度から教務(成績処理、出欠管理、時数管理等)、保健(健康診断票、保健室来室管理等)、学籍(指導要録等)などを統合した校務支援システムの運用を開始した。

名簿情報の入力について、学校での手入力が少なくなるよう、教育委員会で新小学一年生の名簿情報をデータで一括取り込みしている。引き続き、教職員の入力負担が少なくなるよう、定期的な業務手順の見直しを行う。

また、ネットワーク統合と汎用クラウドツールの活用を前提とした、次世代校務支援システムの導入を検討していくため、令和 6 年度から、GovTech 東京が主催する「統合型校務支援システムテーマ別部会」に参加し、共同調達について検討してきた。次世代校務支援システムへ円滑に移行できるよう、令和 7 年度以降も引き続き同部会でシステム等の共通化に向けた検討を進めるとともに、校務と学習のネットワーク統合や校務情報のセキ

セキュリティ確保に向けた準備を進め、令和 8 年度以降、順次リプレイス、システム移行を実施する。

(2) 会議・研修のオンライン化

教育委員会が主催する会議・研修について、Microsoft Teams を活用した、オンライン化を実施し、教職員の移動負担を軽減する。